

# 米GENERAC社と代理店契約 マルチガス燃料非常用を拡販へ

## 株式会社シーエープラント（京都市）



谷吉廣・代表取締役社長

今回は「株式会社シーエープラント（CaPLANT）」を取材した。代表者は谷吉廣・代表取締役社長。所在地は〒615-0924京都市右京区梅津尻溝町67-1。☎075-863-3300。

シーエープラントの前身は1984年（昭和59年）11月に設立した「株式会社キャメル（Camel）」。キャメルのプラント設備の試運転、運転、工事とビルメンテナンス部門の事業を継承し、2000年（平成12年）3月、新会社「株式会社シーエープラント」が設立された。現在、非常用発電設備の販売、設置、保守業務を加えて積極的な経営に取り組むシーエープラントを紹介する。

### 創業の経緯

1982年（昭和57年）から約1年間かけて、当時26歳だった谷社長はヨーロッパ各地を巡り歩いた。谷社長は帰国後の1984年（昭和59年）11月、京都市下京区でヨーロッパの輸入品販売に加え、前職の経営を生かしてプラント設備の試運転、運転、工事とビルメンテナンス業務を主



据置型の空冷式ガスエンジン  
非常用発電設備 8kW（単相）



GENERAC社製のパッケージの中身

たる業務とした「株式会社キャメル（Camel）」を設立した。

2000年（平成12年）3月、キャメルから業務を分離独立させた新会社として「株式会社シーエープラント」を設立し、現在に至っている。

現在、本社は阪急電鉄嵐山線の松尾大社駅から桂川を渡った街中にある。本社ビルは地上4階建て。1階には発電設備や環境プラントに関する性能検査、組み立て、分解整備を実施するための本社工場が開設されている。2階には事務所が開設されており、技術・営業・管理各部門の職員がそれぞれ勤務している。そのほか、東京都内23区には営業所を開設している。



Model.RG022  
22kW

据置型の水冷式ガスエンジン  
非常用発電設備22kW(三相)



Model.QT10068  
100kW

据置型の水冷式ガスエンジン  
非常用発電設備100kW(三相)



ポータブル・ガスエンジン発電設備  
(左) 3.25kW・(右) 5.50kW(单相)



「危機管理産業展2015」  
シーエープラントの出展ブース



好評だった「GENERAC社」製パッケージ

## 事業の変遷

多くの技術員を抱えるシーエープラントでは、6項目を事業の柱として掲げ、売上高拡大に向けた取り組みを進めている。

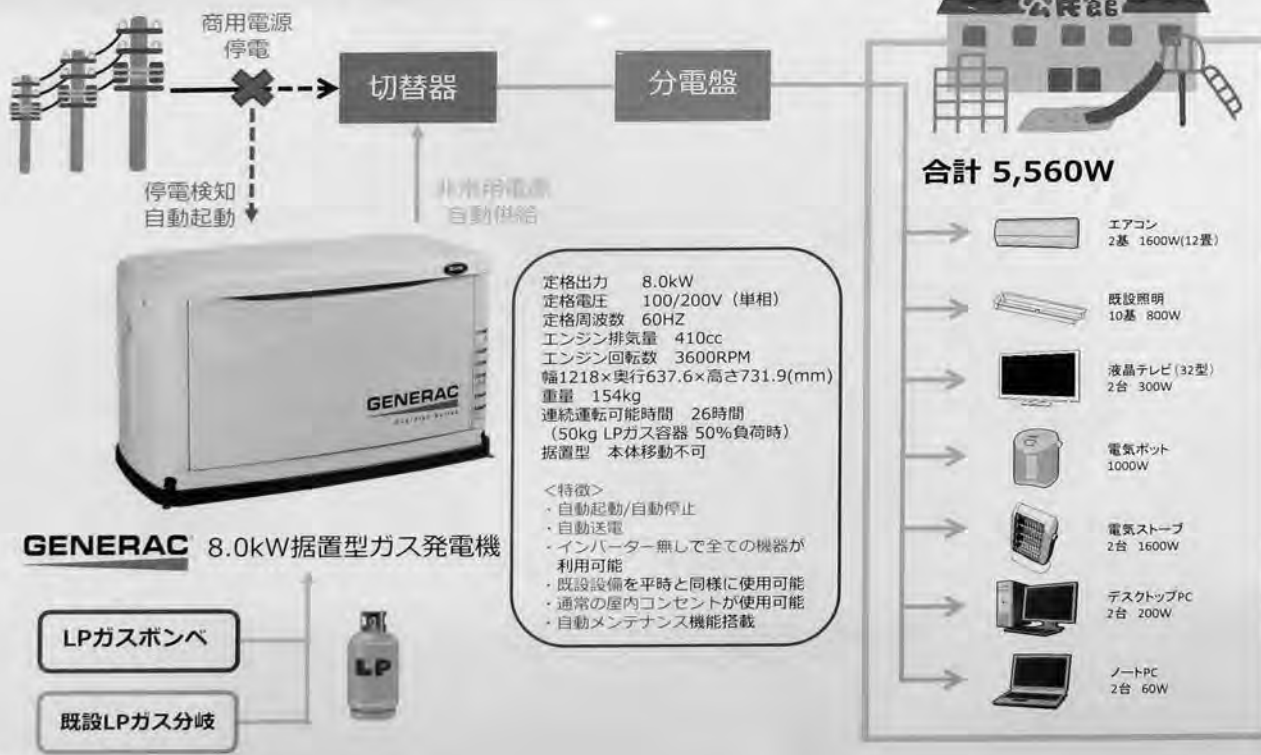
- (1) 環境エネルギープラント設備の運転・保守維持管理 (売上高構成比約50%)
- (2) 環境エネルギープラント設備の試運転・調整 (同約20%)
- (3) 環境エネルギープラント設備の設置工事・補修工事 (同約20%)
- (4) 非常用発電設備の販売・設置工事 (同約3%)
- (5) 太陽光発電事業やパネル設置工事 (同約3%)

- (6) ビル・住宅設備のメンテナンス(同約3%)
- シーエープラントでは、売上高のさらなる拡大を図るため、環境プラントの試運転・運転・設置工事、商業ビルやマンションの設備メンテナンスから非常用発電設備・自然エネルギーシステムの販売設置、事業継続計画 (BCP) の提案を行うなど積極的な経営に取り組んでいる。

## 大震災以降のニーズを踏まえ

シーエープラントは、アメリカの家庭用・事業用の発電設備メーカー「GENERAC (ジェネラック)」社との間で「代理店契約」を締結した。GENERAC社は1959年(昭和34年)の創業。主に家庭用の非常用ガスエンジン発電設備を製造・販売している。家庭用のバックアップ電源

## GENERAC 8.0kW 据置型 非常用発電機の接続および使用事例



としての発電設備の製造と販売実績は年約1万4千台余り。家庭用・事業用のバックアップ電源の市場では大きなシェアを誇る。

現在、シーエープラントでは、非常用ガスエンジン発電設備をGENERAC社から直接輸入し、代理店を通して販売活動を展開している。

京都市の本社工場で発電設備の運転・調整を実施した後、設置工事、メンテナンスにいたるまで自社で一貫して担当している。

GENERAC社製発電設備の主な特長は3点である。

- (1) 多様な種類のガス燃料が使用可能
- (2) 充実した保証期間と経済的な価格設定
- (3) 代理店・販売会社による直接メンテナンスの実施

天然ガス、都市ガス、LPガスなど、さまざまな気体燃料に対応できる非常用ガスエンジン発電設備を取りそろえ、多様化する顧客ニーズに的確な対応を図っている点だ。

### 販売注力していく製品

日本LPガス協会では、東日本大震災の発生

後から供給再開までに費やしたエネルギー源別の日数をホームページで発表した。それによると、「LPガスは4月21日に全面復旧した。都市ガスは5月3日、電力は6月18日にそれぞれ全面復旧となった。復旧の早いLPガスは災害に強いエネルギーとして見直しが進められている」と説明している。

シーエープラントの谷社長は「災害に強い緊急時のエネルギー源としてLPガスに注目が集まっている。分散型エネルギーシステム用の燃料として特に搬送性や携行性に優れたLPガスは高い評価を受けている」と述べた。

その上で谷社長は「停電対策用の電力を自社で確保してBCP(事業継続計画)の積極的な推進につなげようとする企業側の取り組みが増えている。今年10月の3日間、『危機管理産業展2015』において、据置型の空冷式ガスエンジン非常用発電設備8kW、据置型の水冷式ガスエンジン非常用発電設備22kWを実機展示した。その場でそうした企業側からの引き合いは多く、手ごたえは十分にあった。市場ニーズに的確な提案を行い積極的に応えていきたい」と抱負を述べた。